

令和2年度 専科（第47期） 試験問題

【財務諸表論（個資徴班）】

【解答に当たっての注意事項】

- 1 机上には、持込みが許可された筆記用具等以外は出さないこと。
《持込みが許可された筆記用具等》
ペン又はボールペン（インクの色は黒色のみとし、消せるものを除く。）
鉛筆又はシャープペンシル（芯の色は黒色のみとし、B又は2Bに限る。）
プラスチック製の消しゴム、鉛筆削り、定規
腕時計（通信機能を有しないものに限る。）
- 2 答案用紙の追加配付は行わない。
書き損じた場合は、使用した筆記用具により次のとおり対応すること。
 - ・ ペン又はボールペン・・・定規を使い二重線で抹消すること。
 - ・ 鉛筆又はシャープペンシル・・・消しゴムできれいに消すこと。
- 3 答案用紙のホチキスは、外さないこと。
- 4 試験問題は、指示があるまで開かないこと。
- 5 試験問題の内容に関する質問には応じない。
印刷の不鮮明等がある場合には、試験開始後、静かに手を挙げること。
- 6 注意事項に従わない答案や、解答欄を誤って記載した答案については、採点されない場合や、減点される場合がある。

【第1問】

固定資産の減損処理について、「固定資産の減損に係る会計基準」に従い、次の問1から問3までの各問に答えなさい。

問1 固定資産の減損の意義を述べなさい。

問2 減損損失を認識すべきであると判定された資産または資産グループについては、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を当期の損失とする。回収可能価額は使用価値と正味売却価額のうちいずれか高い方の金額である。なぜ2つのうちいずれか高い金額を回収可能価額とするか、その理由を述べなさい。

問3 減損処理の実施後に、回収可能価額が回復したときに減損の戻入は行われない。その理由を述べなさい。

【第2問】

自己株式について、企業会計基準第1号「自己株式及び準備金の額の減少等に関する会計基準」に従い、次の問1から問3までの各問に答えなさい。

問1 自己株式の意義を述べなさい。

問2 自己株式については、①資産として取り扱う見解と、②資本の控除として取り扱う見解がある。2つの考え方を簡潔に説明しなさい。③企業会計基準第1号では、上記の①の見解と②の見解のうち、いずれを採用しているか、①と②の番号を記入しなさい。

問3 期末に保有する自己株式は貸借対照表上、①純資産の部にどのように表示するかを簡潔に述べ、②その理由を述べなさい。

【第3問】

収益の認識について、企業会計基準第29号「収益認識に関する会計基準」と企業会計基準適用指針第30号「収益認識に関する会計基準の適用指針」に従い、次の問1から問3までの各問に答えなさい。

問1 本人と代理人とを区分する最も重要な概念は支配の概念である。支配の概念について述べなさい。

問2 企業が本人に該当する場合と企業が代理人に該当する場合とはどのような場合であるか、支配の概念を用い、簡潔に説明しなさい。

問3 企業が本人または代理人に該当する場合のそれぞれについて、①企業の履行義務はどのような義務であるかを明らかにし、②収益の認識に関してどのように会計処理すべきか、その会計処理について述べなさい。

令和2年度 専科（第47期） 試験問題

【財務諸表論（法人課税班）】

【解答に当たっての注意事項】

- 1 机上には、持込みが許可された筆記用具等以外は出さないこと。
《持込みが許可された筆記用具等》
ペン又はボールペン（インクの色は黒色のみとし、消せるものを除く。）
鉛筆又はシャープペンシル（芯の色は黒色のみとし、B又は2Bに限る。）
プラスチック製の消しゴム、鉛筆削り、定規
電卓（演算機能のみを有するものに限る。）
腕時計（通信機能を有しないものに限る。）
- 2 答案用紙の追加配付は行わない。
書き損じた場合は、使用した筆記用具により次のとおり対応すること。
 - ・ ペン又はボールペン・・・定規を使い二重線で抹消すること。
 - ・ 鉛筆又はシャープペンシル・・・消しゴムできれいに消すこと。
- 3 答案用紙のホチキスは、外さないこと。
- 4 試験問題は、指示があるまで開かないこと。
- 5 試験問題の内容に関する質問には応じない。
印刷の不鮮明等がある場合には、試験開始後、静かに手を挙げること。
- 6 注意事項に従わない答案や、解答欄を誤って記載した答案については、採点されない場合や、減点される場合がある。

【第1問】

固定資産の減損会計について、次の設問1から設問5までの各問に答えなさい。

保有中の機械（取得原価 100 万円、減価償却累計額 20 万円）について、減損の兆候が見られるので、当期末に将来キャッシュ・フローを予測したところ、残存する5年の耐用年数の各年につき、10万円ずつのキャッシュ・フローが生じ、使用後の処分収入はゼロであると見込まれた。

◆参考：割引現在価値の計算表（年金原価係数表）

	3 %	5 %	8 %	10 %
2 年	1. 9 1 3 4 7	1. 8 5 9 4 1	1. 7 8 3 2 6	1. 7 3 5 5 4
3 年	2. 8 2 8 6 1	2. 7 2 3 2 5	2. 5 7 7 1 0	2. 4 8 6 8 5
4 年	3. 7 1 7 1 0	3. 5 4 5 9 5	3. 3 1 2 1 3	3. 1 6 9 8 7
5 年	4. 5 7 9 7 1	4. 3 2 9 4 8	3. 9 9 2 7 1	3. 7 9 0 7 9

設問1 減損の兆候があり、減損が認識される場合、キャッシュ・フローの金額はいくらになるか答えなさい。

設問2 この機械のキャッシュ・フローのリスクを年率5%と想定すると、使用価値はいくらになるか答えなさい。

設問3 この機械の正味売却価格は20万円とするならば、回収可能価額はいくらか。

設問4 この機械の減損損失の金額は、いくらになるか答えなさい。

設問5 固定資産の減損会計の考え方について説明しなさい。

【第2問】

連結財務諸表について、次の設問1から設問3まで答えなさい。

設問1 個別財務諸表準拠性の原則について説明しなさい。

設問2 連結財務諸表における支配力基準の意味内容について説明しなさい。

設問3 連結範囲の決定基準が持株基準から支配力基準へと変更された理由について説明しなさい。

【第3問】

繰延資産の会計について、次の設問1から設問3まで答えなさい。

設問1 繰延資産とはなにか、その意味内容を説明しなさい。

設問2 繰延資産について、有形固定資産と前払費用との違いについて説明しなさい。

設問3 株式交付費に関する会社法の取扱いでは、資本から直接控除する会計処理を認めている。これに対して、我が国の会計基準ではこうした取扱いの適用を見送ることとされているのはなぜか、その理由について説明しなさい。